整理番号

D－5－5　　361-2

標 題 名

大阪府農会事業報告

著 者 名

発行者名

大阪府農会

発 行 年

明治３３

製作年月

平成３０年２月

大阪府農會號外

大阪府農會事業報告

大阪府農會報

號外　明治三十三年五月

大阪府農會事業報告

明治二十六年八月二日郡町村農會規約標準を定められ二十八年三月に至り殆んど府下町村農會の設立を了り直ちに郡市農會の設立を見るに至れり

明治二十八年三月十三日各郡市農會代表者を集め府農會を組織し茲に府下系統的農會の完成を告ぐるに至れり

前述の如く本會創立以來既に五タビの星霜を經たるも未だ以て其の成蹟の顯著ならざるは自から慚愧に堪へざる所なりと雖も亦其の業務の性質として止むを得ざるものあるに因れり而して本會の主として力を注ぎたる二三の事業に付其の方法及成蹟の概要を報告すべし

農事試驗

明治二十八年六月各郡市に一ヶ所宛農事試驗場を創置し之れに場長一名常農夫一名を置き府下重要作物を各郡市試驗場に配當し之か試驗を施行せり試驗の方法は專ら應用的を主とせり試驗場の名稱、位置及試驗作物左の如し

名稱	位置	試驗作物
大阪府農會西成郡農事試驗場	西成郡神津村	野菜、米、麥
同　東成郡農事試驗場	東成郡鶴橋村	野菜、米、麥
同　三島郡農事試驗場	三島郡茨木村	米、麥
同　豐能郡農事試驗場	豐能郡池田町	米、麥

同　泉北郡農事試驗場　泉北郡鳳村　棉及之に代るべき作物、米、麥
同　泉南郡農事試驗場　泉南郡岸和田村　米、麥
同　南河內郡農事試驗場　南河內郡新堂村　米、麥
同　中河內郡農事試驗場　中河內郡八尾村　棉及之に代るべき作物、米、麥
同　北河內郡農事試驗場　北河內郡枚方町　米、麥
同　堺市農事試驗場　堺　市　野菜

而して稻作種類試驗、稻作肥料同價比較試驗、裸麥種類試驗及蔓臺種類試驗は堺市を除くの外各郡共劃一に同試驗を施行し前記指定試驗以外に其の郡に於て重要と認むるの作物及試驗項目は郡農會の要求に依り本會に協商して任意に施行することを得せしむ

場長は試驗場を監理するの旁ら常に郡內を巡回し試驗の成績を講話し或は苗代の改良、害虫驅除其の他農事改良上指導の任に當り或は本會の命を受け諸種の調查に從事し或は郡町村農會の事業を助け需に應じて談話會に臨み品評會、競技會等の審查の任に當り其の多數の日子は巡回敎師の任務に從ふのみならず郡によりては郡農會の幹事を委囑せられ郡農會の施設に參與する等其の名は農事試驗場長なりと雖も其の實は郡に於ける農事の樞軸となりて行動するものなり

農事試驗場の成績として見るべきは試作上成績良好なる種子の分與にあり而して其の設立の始めに當りては趣意のある所を諒せざるのみならず其の所在さへ一般に周知せざりしが近來著しく世人の注意を惹き種子の分與を請ふもの、如き未だ其の成績を公表せざるに先ち種名を撰び分與を請ひ或は時々場長に就て成績上の見込を質し之を需むる等競て新種子を得んことを試驗場に求むるに至れり其の分與の數量の如きも各郡一定せずと雖も一郡六石に昇り少きも二石を下らず而して之等の分與種子は前年の成績良好なる種類を試驗場の餘地に別に種子用として栽培し之を分與し或は良種類を町村農會模範地に栽植し之を分與する等の方法を以てせり

新奇なる肥料の試驗は世人の最注視する所にして大豆粕の如き府下一般に一時に其の需用を增したるが如きは試驗成蹟の結果を信じたるに外ならず其の他人造肥料動物肥料等は目下試驗を施行しつゝあり

棉作に代るべき作物に就ては從來の棉作地に二樣の別ありて一は海岸の砂質地、一は稍海岸を距りたる砂質壤土地之れなり砂質壤土地には棉作に代るべき作物に乏しからずして其の困難甚しからずと雖も海岸の砂地には之に代るべき作物に頗る困苦し目下種々考案し試驗を施行せり

麥稈眞田業奬勵

從來當府下は棉作を以て著名なりしと同時に紡織業を以て農家唯一の副業となせしも近來紡績業の勃興と共に其の工程の大半は之れに奪はれ今尙ほ木綿織の業に從事して副業の一となせども其の原料は既に自家の産出物に非ずして全く工業家の下働をなすに過ぎざるに至れり是れに於て本會は農業的副業を覓め多數農家の老幼婦女に手藝を與へんと欲し種々調査する所ありしが遂に麥稈眞田は其の目的に適合せるものなることを確め明治三十年六月三名の傳習生を岡山縣下に派遣し麥稈の栽培より編組の術に至る迄悉く傳習せしめ歸來各郡に傳習所を開設すること九回殆んど二百名に垂んたる傳習生を出せり之れ等は悉く未だ其の事業に着手するに至らずと雖も其の多くは自家産出のもの或は近隣の麥稈を買收して之を眞田に編組し多少の收利を見るに至れり

一面府廳よりは麥稈眞田に適せる裸麥コビンカタギ種の種子を分與し廣く之れを耕作せしめ大に之れが奬勵に干與せられしを以て種子の普及極めて速かなるを得たり刈取貯藏等の方法に於て未だ悉くさゝる所あるを以て充分の收利を得ざるも既に昨年の如きは岡山縣下より買收に來りしものありて相當の利益を收めたるものあるに至り將來有望のものたるは農家の知る所となれり

本年は各所の傳習生に各組合を組織し工場を設けしめ之れに事業の狀況により多少の補助を與へて職工の養成に勉めしめ販路等には勉めて保護を與へ漸次近隣の農家をして其の有利の事業たるを知

らしめ廣く此副業に從事するに至らんことを期せり

短期農事講習

農事改良の普及を圖るは農家の智識を啓發するにあるは言を俟たざる所にして此目的を達する最捷徑は短期農事講習にあるを以て本會は去る明治三十一年度より此事業を創始せり之れが講師としては各郡農事試驗場長は前既に述べたる如く其の業務頗る多岐に渉り繁忙其の暇なきを以て府農事巡回教師の餘暇を以て其の任に當てられんことを本會々頭より知事に稟請し幸に採納せられ短期農事講習を開始せり然れども府農事巡回教師は本務常に多忙にして之れに充分力を注がるゝことを得ず本會之を遺憾とし昨年度に於て本會に技師一名を聘用し本會業務を劃策するの傍ら講習に從事することゝなれり爲めに未だ多數の修業生を出すに至らざるを以て其の成蹟の徵すべきものなしと雖も南河內郡某村の如きは講習生一會を組織し相互研究農事改良の率先者たらんことを期せり以て大に望を屬すべきなり

本會に於て行ふ所の短期農事講習は之れを三期に分ち一期を一週間とし第一期土壤、第二期肥料、第三期作物とし最簡易に記述せる講義錄を印刷し之れを講習生に無料にて與へ種々の標本を示し以て其の大要を講述す而して講習會は或は郡農會の事業とし一郡內に講習生を募集し之れを開くものあるも其の多くは一村或は數ヶ村合併して講師の派遣を郡農會長を經て請求し本會は之れに應じて技師を出張せしむるの近來講習會の開設頗る多數にして講師繁忙を極め悉く其の請求に應ずる遑なき程盛況を呈せり

品評會

本會に於て系統的農產物品評會を開設せんと欲するや久しと雖も未だ其の經費に餘裕なく且つ各郡其の事情を異にすること甚しきを以て其の方法は大に考慮を要すべきが故に未だ之れを施行するに至らず特殊の品目に就ては既に昨年種牡牛品評會を開設し聊か家畜改良の端緒を開き這回又柑橘品

評會を開き以て之れが改善を圖らんとする等漸次各種の品評會を開かんとす

苗代改良

苗代の改良に關しては府知事の訓令に基き本會は各郡農事試驗場長をして之れが督勵の任に當らしめ殆んど全部の改良を成し遂ぐるを得たり本年の如きは全く從來の形狀を有する苗代を見ざらんことを期せり殊に共同苗代の奬勵は追々其の効を奏し本年の如きは既に十數ヶ村に設置するに至れり

會報

本會は會報を發刊し以て下級農會及各府縣農事團体と氣脉を通ずるの資に供せり

郡町村農會事業

各郡市農會に於て施行せる事業の主なるものは農事試驗の一部及品評會、競技會、種牡牛設置等にして其の成績見るべきものなきに非ず殊に家畜の多數を有する郡にありては郡獸醫二名乃至三名を置き家畜の保護生産に關する事項を管理せしめ其の成績頗る良好なり府下九郡中四郡は既に其の設置を見、其の他は目下計劃中に屬するものあり本年度の如きは府稅より既設の分に對し補助金を交附せられ益々其の基礎を鞏固にし家畜を保護奬勵するの任に當らしむ

町村農會に於て施行せる事業は頗る雜駁にして今之れを列擧すること難しと雖も其の主なるものは立毛品評會、製產物品評會、共同賣買及模範試作地等にして或は町村役場と農家との中間に立ち雇人賃錢の定額、地主小作間の和解等巧に其の任務を盡すものなきに非ずと雖も其の多數は未だ充分の活動をなさざるは頗る遺憾とする所なり町村農會の動作如何は直接農家に影響を與ふること大なるものなれば將來大に考慮を要すべき事項なりと思惟す

其の他耕地整理、害虫驅除及一般農事改良上に關しては府當局者と力を戮せ相提携して時宜に從ひ劃策施設し以て今日に至れり將來益々法令の下に立て其の任務を完ふせんことを期す聊か從來施設

せる所の概要を記して報告に代ふ

明治三十三年五月　日

大阪府農會々頭　菊池侃二

府下柑橘ニ關スル主産地ニ於ケル調査

大阪府農會

泉北郡に於ける調査

泉北郡農事試驗場長　岸田利三郎

沿革

密柑は本郡に於ける重要物産の一にして昨三十二年の作付反別は實に一千三百二十六町一反歩の多額に達せり今其の起源を尋ぬるに今を距ること百八十年前正德年間當時遠藤但馬守の領地に係る本郡山瀧村大字内畑に植へしを以て嚆矢とし漸時近隣相傳へて栽培するに至りしも一村落中僅々五本乃至十本内外に過ぎず其の種類は平蜜柑、(俗に紀州蜜柑と曰ふ)及丸蜜柑(俗に本蜜柑と曰ふ)の二種なりき然るに此二種は虫害多くして殆んど驅除に困却し居りしが天保年間に至り攝津國豐島郡細郷村より温州蜜柑の苗を販賣するに至り之れを栽培せしに果中に核子あるもの殆んど稀に味も亦美にして且つ虫害の患頗る鮮かりしかば茲に始めて温州蜜柑を栽培することを創め弘化安政の頃に至りて漸次繁殖せりと云ふ是れより先き蜜柑を大阪市場に搬出するや問屋は必ず紀州蜜柑に混同して賣品とせしにより世人は和泉蜜柑の産出あることを知らざりしが明治八年の頃より其の産出漸次增加するに從ひ其の販路の大阪に便なるを利し紀州蜜柑の未だ市場に上らざる前に陸續搬出して市場に山を爲しゝかば終に之れを壓することを得て茲に始めて大阪市場に和泉蜜柑の名を博するに至り栽培者は時の來れるを喜び愈々增殖を計り山麓を開きて蜜柑を栽ゑざるはなし山麓已に餘地なく且つ暖地早熟のものは貯藏に適せず晩種のものは能く之れに適することを發見してより山嶺殆んど人蹟の及ぶ能はざる處をも拓きて之れに栽培せしが豫考果して誤らず早きものは十月頃より遲きものは翌年四五月頃迄に搬出し其の間市場をして常に蜜柑に缺乏することなからしむることを得又一層の聲價を博したり降て明治六七年の頃に至り更に北海道及上海に販路を開くの氣運に際會せしを以て蜜柑産地の農家は世上金融の逼塞なるにも拘はらず新に蜜柑園を拓く者には其の新墾地を抵當として一反歩に開墾費資金壹百圓を貸與するの風習となれり其の後明治十一年に至り山口縣より夏橙の苗木を取寄せ試栽せしに其の果實大にして殊に温州蜜柑の殆んど盡きる頃に至り採收し得るを以て大に好評を博し漸次之れが增殖を見るに至れり

亦明治二十三四年頃合衆國カリフォルニヤ元産ワシントン、ヂーブル柑の紀州那賀郡地方に試栽せらるゝや其の風味甘酸適度にして夏橙の如く苦味は毫もなく如何なる土質にても栽培し得るのみならず殊に海外に輸出するも腐敗の患少なく又貯藏して六七月頃に至るも漿液減せず甘味なる佳品なること判明するに至りしかば本郡の如きも已に昨年多少栽培せるものあり本年の如きは一萬本（殆んど十町歩）以上の植付を見るに至り將來有望なる種類たらん

地勢

温州蜜柑、平蜜柑、柑子、金柑、其の他之れに類似の種類は東北方に傾斜して風の強く吹き通さゞる所を最良の地形とす

夏橙、鳴戸蜜柑、旭柑、（一名赤夏柑）ヂーブル、文旦、其の他之れに類似の種類は稍排水の宜しき平坦なる場所を最も適當とす

土質

砂礫質壌土は如何なる種類にても最も適當の土質にして之れに次ぐものは眞土とす

開園法

從來の山林を開墾して柑橘を栽植せんと欲するものは秋冬農閑に際し繁茂せる樹木を伐採し一番起しと稱して利鍬にて諸草木根を堀り取るなり此際尤も注意すべきは篠根の一片たも殘らざる樣堀り取ることなり何となれば若し少しにても篠根の殘りたる場合には夫れより萌芽して遂には蔓延するの怒れあるを以てなり此一番起の功程は地勢の難易、土質の如何、及草木根繁茂の如何により一反歩七八十人より百四五十人迄の差あり而して後二番起しと稱し利鍬、大鍬、鶴嘴等を以て凡そ一尺五寸位の深さに一樣に打起し地の高低を爬き均らすものとす若し高所の部分に打殘りたる所あれば再び打起し以て二番起を終るものなり此功程も前と同じく地形土質の如何により多少の差異あれども大抵一反歩五十人位を以て成功することを得

右の如く開墾したる後注意を要すべきは雨水のために傾斜地の於ける土砂の潰崩を防ぐことにして其の法はへ字形に傾斜の尤も急なる中央の下部に二尺位の杭を一間に三四本宛を打込みたる後平列せる杭に副ふて上方の土を除き割竹を杭に疊み込み元の如く除きたる土を堅く踏み付け杭の頭見へ

ざる位になし置き以て後日の潰崩を防ぐにあり此の如く準備したる後開墾せし地所の周圍は場所により石垣を築き又は溝を堀りて排水の便並に草木根の侵入を防ぐ

苗木

苗木は通常兵庫縣川邊郡稻野村又は愛知縣等より一年生或は二年生のものを買ひ來り二ヶ年（一年生）若くは一ヶ年（二年生）田畑に培養したる後本植するものとす其の法は三四月頃苗の未だ萌芽せざるに先ち前記の産地より運搬し來り之れを麥作の畦（巾三尺）に二條（一年生）又は一條（二年生）に一尺二三寸の距離に可成高く堅く植付け直ちに一反歩鯡粕五斗位の割合にて根邊に施し土を覆ひたる後畦の中央迄灌水するものとす

右の如く植付けたる苗は麥の收穫を終りたる際一反歩一石六斗位の割合にて鯡粕を一條植なれば便宜の一方に筋を切り二條植なるときは中央に筋を切りて施し其の上に厩肥を適宜に散布し後土を覆ふ而して第三回の施肥は秋彼岸前に一反歩八斗の割合にて鯡粕を前回と同樣の方法を以て施すものとす其の間の手入は雜草の生せざる前に時々中耕を行ひ尚夏期旱天のときは灌水して濕氣を土壤に保たしむべし冬至後大抵十日迄には溝萩又は藁を以て枝葉の見へざる樣包覆して霜除けをなし翌年春彼岸頃降霜なきに至り右の霜除けを取り去り一ヶ年殖（ヨヤシ）（二年生）に於ては夫れより五月上旬迄の好期に本植し二年殖（一年生）に於ては前年の如く施肥手入をなすものとす

移植

移植期は其の年の氣候により多少斟酌せざるべからざるも大抵四月上旬より五月上旬迄とし新芽の將に萌出せんとするときを以て最上の好期節とす其の法は降雨のため苗圃に濕氣を保てる外は堀採る前に一回灌水して充分土地を濕したる後利鍬にて苗圃より一株宛堀採り本畑に運び根の損傷せるもの及荒根の先を適宜剪去して植付くるものとす其の植付けんとする場所は兼て一條毎に紙片を付着したる繩にて各株間一丈として其の位置を定め三尺位の竹棒を目印として其の紙片の付着したる個所に立置き植付の際に右の竹棒を除き一尺位の深さに穴を堀り樹根を四方に捌きて丁寧に堅く植付く最も其の植付けの深さは深きに失するよりも

寧ろ二三寸位高く植付くるを宜とす植付ければ直ちに一株に鯡粕一合位根邊に散布し其の上に厩肥を適宜に施し土を覆ふ植付け終れば曩に取り除きたる目印の竹棒を根際より一尺位を隔て斜に挿入し繩にて幹の中央に縛り支柱となし風のため幹の動搖するを防ぐ

肥料

本郡に於て柑橘に施用する肥料の種類は鯡粕のみにして大抵北海道産の紋別、増毛の、樽前、呂々等の最上品にして其の他の肥料は唯補肥に用ゆるのみなり其の施肥期は温州蜜柑及之れに類似のものは大抵五月上旬、十二月下旬の二回とし夏橙及之れに類似のものは四月中旬、六月上旬、九月下旬の三回にして其の施肥量は種類、老幼、土質、氣候等の如何により多少差異あれども通常温州蜜柑及夏橙に施すべき年次施量の増加は概略左表の如し

年次	温州蜜柑 一回二回	夏橙 一回二回三回
初年	五匁	一〇匁 一〇匁 一〇匁
二年	一〇	二〇 二〇 二〇
三年	一〇	三〇 三〇 二〇
四年	二五	一〇 四〇 二〇
五年	四〇	一五 六〇 三〇
六年以上十年迄	五〇	二〇 七〇 六〇
十一年以上二十年迄	七〇	二〇升 九〇 七〇
二十一年以上	七〇	三〇 三、〇〇 二、〇〇

前記の施肥法は植付後大抵六ヶ年迄は各樹の葉先き周圍に淺き圓筋を穿ち之れに施して土を被ふ六ヶ年後は全園一圓に散布し直ちに除草を行ふて土と混合するなり

攝護

毎年十二月下旬霜害並風害を豫防するため荻又は藁等を以て各樹を被覆するものとす殊に夏橙の如き冬間尚未だ成果せるものに於ては果實の霜害を防ぐため一層丁寧に之れが豫防をなさゞるべからず然れども温州蜜柑の如きは植付後八ヶ年に至れば大抵是れ等の豫防を行ふ事なしと雖も西北風の烈しく吹き通す場所にありては特に其の部分の樹幹にのみ荻を張りて豫防することあり其の他近年栽植し始めたる「ワシントン、ヂーブル」柑の如き改良せられたる上等の種類に至りては根際の天牛虫に侵さるゝを防がんため棕櫚毛を二重三重に巻

き付け以て之れが豫防策を研究しつゝあるものあり

採收

温州蜜柑等の採收は大抵十二月上旬なれども年の氣候寒暖の如何により多少斟酌せざるべからざるも要する處は降霜二三回に遭遇したる後採收せしものは其の貯藏の結果宜しければなり而して之れを採收するに當りては餘り早朝より就業せず大陽稍昇りて霜露の散したる後始むべし尤も採收者の爪は柑實に負傷せしむるの恐れあれば前以て剪み置かざるべからず採收の際は表番（成果の多きを云ふ）のものと裏番（成果の少きを云ふ）のものと其の採收を分ち又樹の上部に結實したるもの（俗に天成と云ふ）と中央に結實せるもの（俗に「フトコロ」と云ふ）及び下部に結實せるもの（俗に「ドロツキ」と云ふ）とを別々に採收すべき事、採收の際手の足らざるを強ひて柑實を引張りて剪み採らざる事、剪採の際掌中にて柑實を緊握せざる事、柑實の大なるものは一二個小なるものにても三四個より多く掌中に置かざる事、剪採したる柑實を採籠（俗にトリボテ）に入るゝには音のせざる樣大切に入れ納むべき事、剪採の際誤て鋏尖等に付傷せしもの及虫鳥等の喰傷あるもの又は掌中より採り落したる者等は惜しげなく地上に殘し置き貯藏すべきものと混せざる事樹より剪採り再び掌上にて切軸を極めて短かく切り直すべき事等は採收上最も注意すべき點なりとす而して採收の用具は鋏及籠の二種にして鋏は通常木鋏と稍々異にして鋏齒の部稍々短く凡そ一寸內外にして鋏尖は圓滑なり籠には採籠と運搬籠（俗に山籠と云ひ凡そ柑實十六貫乃至二十貫目入一荷とす）との別あり採收の際は小なる採籠に剪採り運搬籠を以て貯藏庫へ運送するものなり而して其の採收の方法は前陳の採收用具と採收の注意とを以て表番の柑實と裏番の柑實とを採別し同時に樹の上中下部の成果相混せざる樣一々剪採して採籠に納め籠に滿つれば撰別所（撰別所とは蜜柑山又は其の附近の適當なる場所の所々へ一ヶ所に蓆一二枚を布き此所へ剪採したる柑實を持ち來らしめ柑實の品位を上中下の三段に撰別して各運搬籠に入るゝ所なり則ち上は天飛と稱し最も果の大なる表皮の滑かなるものを云ひ中は中果にして天飛を除きたる上等品なり下は俗に之

れを「ガラ」と稱し表皮の醜きもの及小果を云ふなり）に持ち來らしめ上中下の果を各別に運搬籠に入れ之れを貯藏庫に運送す右運搬籠は可成丈夫なるを宜しとす何となれば運搬中籠の弱きものは爲めに壓縮せられて籠中の柑實を傷むるの恐れあるを以てなり又貯藏の際は豫て準備したる倉庫へ運搬籠より極めて靜に音のせざる樣丁寧に取出すべし

夏橙の採收は春彼岸より六月下旬迄の間に於て需用者あるに從ひ葉一二枚を付して採收し販賣するものとす

貯藏

貯藏庫の位置は可成温度の變移少き場所を貴ふか故に終日日光の直接透通せざる場所を最も適當とす故に自然の高地、森林、建築物等の爲めに東西南遮蓋する處に貯藏庫を建築するを宜とす而して貯藏庫は可成二階建にして各室の大さは八疊又は六疊位を一室となし周圍は土造にて床板は張らずして地面上一尺乃至一尺五寸位の高さに丈夫なる竹簀を張るを以て尤も宜しとす窓は各室の上側に適當の大さなる窓を一ヶ所又は二ヶ所に設け尚竹簀より下部側面に二ヶ所適當なる大さに窓を設くべし之れ貯藏中空氣出入の加減に便ならしむる爲めなりとす

貯藏庫に運搬に來りたる柑實は大抵四個乃至五個重ねて列べ貯藏後半月間位は戸及窓を開放して風に當て柑實の手當りを「シナヤカ」ならしむべし尤も開放期の長短は氣候倉庫の位置、蜜柑の品位等により多少異なるものなれども要する所は柑實の手當りと色澤とにより斟酌し適當なる時機に閉塞すべし尚其の後とても時々庫内を巡視して柑實の「イキル」（「イキル」とは柑實内の水分無くなり表皮のみ水々として稍々色の異りたるもの俗に又「フク」と云ふ）模樣あるときは直ちに上下の窓及戸を開放して豫防する等注意すべし翌初春に至り殊に南風の吹くときは甚だ多く腐敗するものなれば此期とても時々巡視して腐敗せるものは見當り次第取除くべし此の如く注意周到なるときは本郡産の蜜柑なれば六月頃迄充分貯藏するを得總て蜜柑は採收の期節に餘り甘味なるものは貯藏久敷に堪ゆること能はず酸味強きものは貯藏に能く堪ゆるものなりとす

以上陳述し來りたる貯藏法中表番の蜜柑は能く貯藏に堪へ裏番の蜜柑は之れに反する事を考へ爲めに採收の際採別せし事、貯藏庫の位置に其の宜しき場所を考へし事、倉庫の床板を廢し竹簀に改め時機を見て空氣の透通を便ならしめし事等を發見するに至りしは近年に於ける蜜柑貯藏上の一大進歩の要點なりとす凡て酸味の強き表番の成果にして樹の上部に結實せる者は尤も永く貯藏し得べく次は中部に結實せるものにして下部に結實せるものと裏番の柑實とは貯藏に堪ゆる能はざるを以て各其の室又は場所を分け置き貯藏に堪へ難きものより販賣し始むるを以て通例とす

病害

煤病の原因に三樣あり一は蚜虫の害より誘起せらるもの一は排水不良或は根部の土軟起により誘起せらるゝもの之れなり一は直接黴菌の附着によりて起るものにして此等の豫防法は根際に多くの藁灰を散布し置けば二ヶ月位後には全治することを得排水より來るものは排水の便を謀り根の軟起より來るものは土を盛りて踏み堅むべし

虫害

柑橘害虫種類の主なるものは天牛虫、蓑虫、蟻、介殻虫の四種なり

一天牛虫（俗ニガツト又ハ鉄砲蟲ト云フ）天牛虫と三種あり一を天牛虫と云ひ一を齧桑虫と云ふ天牛虫は全体黒褐色にして脚、眼、口、腹は灰色にして觸角は体より長く毎節乳灰色の班紋あり齧桑虫は前者より稍々小にして全体黒色前翅の表部に小白點あり觸角は前者より稍〻短く二種共に五六月頃發生し柑樹を咀嚼し甚しきは樹の周圍を蠹食し遂には枯死せしむるに至る夏土用前後多くは樹幹の根際若くは枝に穴を穿ち産卵す卵は乳白色楕圓形にして其の大さ甜瓜種子の如し其の卵孵化して鐵砲虫となり幹に喰入す其の体乳白色にして頭部甚だ大なり産付の早きものは其の年に孵化し幹に喰入すること七八寸に至ることあり晩きものは翌春に至るも唯孵化するのみにして發育せざるものあり此虫は三四ヶ年間樹幹の體中に生息し遂に褐色虫に化し其の蛹羽化して前の如き甲虫となるものなり之が驅除法は夏土用前一回土用中二回土用後一回樹幹根際部を一々巡視し樹脂の湧出せるものは卽ち該虫の産卵せる現象な

れば竹篦又は「ツミ」錐等の類を以て其の卵を刺し潰すべし見殘りたる分は鐵砲虫となり鋸屑の如き粉末を出すを以て此の如き場合には錐又は「ツミ」を以て刺殺すべし尚見殘りて鐵砲虫の喰入迂回して右要具にて刺殺し得ざるものは樟腦油、石油、硫黄花等を少量注入し鬢付又は粘土を以て其孔口を塞き置くを宜しとす又其の甲虫は見當り次第樸殺すべし

二蓑虫　五六月頃塵埃を纏めて其の内に棲息し樹葉の養液を吸收す生長するに從つて枝葉を蠶食して大害をなす此虫の驅除法は見當り次第取り殺すべし

三蟻　六月ツハリ秋ツハリ等の新芽に乘揚して蚜虫を造り被害をなす其の豫防法は蟻の容易に揚り得ざる樣根際に髪毛を纏ひ防ぐべし又蚜虫を生じたるときは石鹸水等を注射して殺滅す

四介殻虫　此虫は多く幹枝に寄生し其の形恰も介殻の如くにして極めて小なり殻中に赤褐色の小虫あり七月頃に至り充分生長すれば雌は夥多の卵を産み雄は柔軟なる羽を生じて幹枝を這ひ歩くものなり此虫は四季共に柑樹に寄生して其の養液を吸收するものなれば被害の樹は漸次衰弱して遂に枯死するに至る其の驅除法は早春發芽前灰汁に石油を混し又は石鹸水等を以て洗ひ落すものとす被害甚しき枝は之れを切り取りて燒殺すべし驅除怠れば忽ち蔓延するものと知るべし

温州密柑一反歩收支計算

（植付後二十年目）

支出

一金貳拾五圓五拾八錢

内譯

金貳拾八錢五厘	地租、地方稅、村費
金貳圓貳拾五錢	開墾費二十分の一
金四錢五厘	植付人夫賃二十分の一
金六拾錢	苗木代二十分の一
金拾貳圓八拾錢	肥料鯡粕一石八斗並に下草代
金壹圓八拾錢	除草人夫賃
金貳圓四拾錢	施肥下草其の他虫害豫防驅除人夫賃
金參圓	採收運搬人夫賃
金貳圓	貯藏庫建築費五十分の一
金四拾錢	用具修繕費

収入

一金四拾八圓

内譯

金四拾八圓　密柑十六貫目入三十二荷代
一荷に付平均壹圓五拾錢

差引金貳拾貳圓四拾貳錢　純益金

夏橙一反歩收支計算（植付後十年目）

支出

一金四拾圓貳拾七錢五厘

内譯

金壹圓八拾錢　苗木代十分の一
金貳拾六圓　肥料餅粕二石四斗並に下草代
金貳拾八錢五厘　地租、地方稅、村稅
金四圓五拾錢　開墾費十分の一
金九錢　植付人夫賃十分の一
金壹圓八拾錢　除草人夫賃
金貳圓四拾錢　施肥、下草其の他害虫豫防驅除人夫賃
金參圓　採收運搬人夫賃
金四拾錢　用具修繕費

収入

一金壹百貳拾圓　夏橙一萬二千個一個に付金壹錢

内譯　金壹百貳拾圓

差引金七拾九圓七拾貳錢五厘　純益金

栽培反別及產額（明治三十三年二月調）

種類	反別		數量		價格	
温州蜜柑	一、一六四、〇	反	四六五、〇〇〇	〃	四六五、六〇〇	円
夏橙	一三五、〇		四五〇、〇〇〇	個	四五、〇〇〇	
平蜜柑	三、三五		二五、〇〇〇	〃	一、二五〇	
八代	三		九〇〇	〃	七二	
金柑子	二、三五		八、七五〇	〃	四三八	
泥柑子	一、〇		三、五〇〇	〃	一〇五	
金柑	二、八		二八〇	石	二、八〇〇	
鳴戸蜜柑	七、〇		一六、〇〇〇	個	八四〇	
旭柑	七、五		一八七、五〇〇	個	九三八	
文旦	三、五		七五、二五〇	個	一、三九	
計	一、三六、一		一		五二八、一七二	

販路及販賣の方法

堺、大阪、神戸、京都、東京は主なる販路にして其の他明治二十三年頃より合衆國、オースタラリヤ、ウラジオストック、支那等の各國へも輸出を始め居れり是等販賣の方法は大抵多くの仲買人の手を經

て販賣せり內地向と輸出向とを問はず一定の箱（長一尺二寸巾七寸、深さ五寸のもの、長一尺、巾六寸、深さ四寸のものとあり又近來は石油箱に入るゝもあり）に入れ販賣すれども堺、神戸又は地方販賣には俵に入るゝなり

栽培者は山にて成果の儘賣渡し或は貯藏庫に入れ置き時期を見計ひ仲買人に賣渡す如き種々の方法あれども目下栽培者に於ても大に思慮する所ありて從來の販賣法を一洗し一定の規約を設け共同販賣を實行せんとする計畫を爲し居れり

南河內郡に於ける調査

南河內郡農事試驗場長　村本廣吉

沿革

本郡柑橘は今を去る百年前卽ち寬政年間大和、和泉地方より傳はりしものにして其の當時栽培せしは天野山、小山田（天野村）野（長野村）竜泉（東條村）國府（道明寺村）國分（國分村）の諸地方にして其種類は平蜜柑及唐蜜柑の二種なりき其の后漸次近隣に傳はり年々多少增加しつゝあり天保年間に至り攝津國より温州蜜柑苗を販出するや各之れを試植したりしに存外良種なりしかば漸次栽培するもの多く明治初年に至り諸所の山林原野等を開墾し栽培するもの年を逐ひ益々增加するに至る同二十二年頃夏蜜柑苗泉州より傳はり何れも多少試作せしに近年に至り其の收益温州蜜柑に勝るべき好結果を得たれば之れが栽培をなすもの又温州蜜柑の如く次第に增加せり此の如く温州蜜柑の收益少なからざると又夏蜜柑の早く收益を得らるゝとに依り兩種共に栽培者一層增加し目下の狀況は之れを數年前に比し其の作付反別の增加せしもの實に四十餘町歩に達せり

栽培法

地勢　概ね村落に接近せる山林及原野の開墾地にして運搬に於ては不便なる所少なし而して其の位置は人々により多少其の撰ぶ所を異にすれども栽培者の重なるものは東面及北面の地を撰び南面殊に西南に面する地は大に忌避せり

土質　概して粘土質なれども移植後一般下草を年々多量に施用するを以て自然膨軟となり柑橘類の生育には適するものゝ如し依て大抵の山林は開墾すれば柑橘類を栽培することを得べし

苗木　は攝州池田地方より輸入するもの多しとす而して其の苗木は二年生のもの多く又泉州横山地方より四年生のものを購入するものあり但し該苗木は本來池田地方より輸入せしものにて泉州に於て二ヶ年間更にもやしたるものなり又近年に至り尾州より輸入するもの多し然れども現今重なる栽培者は苗木輸入の不利なるを悟り漸次自から各種の苗木を作ることを勉めつゝあり

移植　其の期節は概ね春彼岸前後にして秋期に移植するは稀れなりとす而して其の植付くる株の距離は一丈四方にして一反歩百本を以て通例とせり最初二三年間は間作をなす其の作物の重なるものは麥蕎薑芋類等なりとす

肥料　重に鯡粕、絞粕、眞粉粕等にして其の施用の期節は大概四月下旬と十一月下旬の二期とし甲期は春肥と稱し開花に先ち新芽の稍々萌出せし頃に用ひ乙期は寒肥と稱し收穫後施用するものにして其の目的は寒凍を防ぐにあり而して以上の外夏土用前に下草を撒布す

施肥の量は其の蜜柑の種類及年數に依り多少ありて一定せざれども今其の重なる温州蜜柑と夏蜜柑との兩種に就て大要を示さば左の如し

種類名		眞粉粕	附記
温州蜜柑	春	一升五合	本國移植後十五年を經たるもの
	寒	五合十五駄	同上八年を經たるもの
夏蜜柑	四	升一	同

備考右の量は蜜柑各一本に對する計算なり

施肥の方法は一面に撒布し其後（ユマザラヱ）の如きものにて表土を掻き交ぜるを以て最良の法とせり

耕耘　は主として除草をなすにありて其の時期は四月中旬、五月中旬、六月中旬、七月中旬、十一月中旬、二月下旬の六回にして其の方法は主として「マンノ」と稱する扁平なる鍬にて削り根際は手にて竹へらを用ひ引き掻くなり而して一戸に多數栽培するものは往々人夫を雇ひ一日百本宛を通例として受負はしむるもあり

攝護

（一）　夏期は土壌の乾燥を防ぐ爲め下草を撒布し（幼樹は株の周圍に成樹は一面）に兼て冬期の凍氷を豫防す

（二）　寒期には十二月下旬頃薄く樹上に藁を覆

ふ又粗製の莚を以て覆ふものあり夏蜜柑の如きは何れも莚を以て覆をなせり

(三) 降雨の爲め土壤の流出を防ぐ爲め急斜面には木皮材又は石材を以て圍ひ土砂止めとなせり

(四) 肥料の冗費及空氣の流通を良しくせんが爲めに剪枝法を行ふ其の法は收穫後若くは春期に於て樹木の内部(方言ホトコロ)に生れたる枝梢を切り去る但し剪枝を行ふは七八年生以上のものにして隔年に之れを行ふものとす

(五) 根の衰弱を防がん爲めには春期施肥前根切り法を行ふ

(六) 結實の際枝を下垂せざらしめん爲めに丫形のものを以て之を支へ又は〳〵ギ竹にて本幹に結び付け之れを引き上げ置くものあり但し繩、籐等にては梅雨の節に腐敗するを以て宜しからず〳〵ギ竹なれば三年位は保存すべし

(七) 虫害豫防の爲め避債虫は四月上旬より五月の間に又髓虫は夏土用中に各母虫を捕殺することに注意し又夏土用後には園内を巡視して髓虫の根際に産卵せるものを摩殺することを勉むべし

採收　採收する時期は十一月下旬より十二月末迄にて其の法は通常手鋏にて切り取るにあり而して其の人夫は概ね婦女子を雇入るものとす

貯藏　元來本郡に於ける柑橘栽培者の多數は之れを貯藏することなく畑の儘仲買者に販出しつゝありしを以て貯藏法の完備せるものなし然れども近來栽培者は貯藏の利益を悟り目下其の方法に就て夫れ〳〵講究中なり

病虫害　病害の重なるものは煤病にして各地に多少發生す而して其の豫防及驅除の方法は諸説ありて未だ確定せず今其の良法とせる一、二を擧ぐれば

(一) 煤の發生するは樹根の衰弱に原因するものなれば之れを治するには主として根に勢力を付するにあり而して其の方法は春期柑橘樹の周圍(樹の大小に依り遠近あるものにて概ね其の枝尖きを以て標準とす)を巾五寸深さ一尺許り堀り悉く根を切斷し然る後堆積肥料の類を施用し爾後毎月一回位充分腐熟せる人尿を施與すると兼て排水を宜しくすべし初め一年目は樹勢却て一層衰弱せるもの〻如き觀あるも次年よりは

漸次勢力を增加し終に全治すべしと

(二) 肥料の過不及により起る樹勢の衰弱に原因するものなれば之れを治するには主として肥料を施す時期に注意すべし而して其の時期は八十八夜前後を以て適當なりとす卽ち當時は旣に新芽萌發し益々肥料分を要求するを以て此の際施肥すれば決して過分の恐れなく施肥せん最大限の効力を奏し夫れが爲め終に煤煙を除去し全治するに至る現に從來冬期若くは早春に施肥せし柑橘園には煤の發生多きこと其實例少なからず是れ卽ち樹木が未だ肥料を多く需用せざるに際し施肥せしにより其の當時は肥料過分に失し爾來新芽發生し多く肥料を需むるに際し不足を來せばなりと其の理論は兎も角實際上該法に依り全治せるもの多し

(三) 以上の如く根本的治療にあらずして旣に發生したる煤を除去するにあり其の法は風呂水を一面に注ぐか麵類の煮汁を注ぐも妙なりと

虫害の重なる種類は髓虫、避債虫、烏蠋、蚜虫等にして一般行ふ所の豫防及驅除法は左の如し

(一) 髓虫、該虫の母虫卽ち天牛虫は夏土用十日頃より捕殺することを勉め本幹の頸部に產付せる母虫の卵は土用入後搜索して見當り次第摩殺すべし特に幼樹は一層注意せざれば其の害甚しく往々枯死することあり蓋し幼樹は大樹に比し頸部の周圍狹小なれば一隻の母虫產卵するに頸部の全周圍を咬噛するに依り忽ち樹液の昇降休止するを以てなり

又木心に蝕入したるものは其の孔口より鐵線の如きものを突き入れ刺殺すか又は孔中に硫黃花を薰蒸し或は粘土を以て孔口を密閉し窒息せしめて殺すか如き諸法を行へり

(二) 避債虫、四月下旬より五月上旬之間に產卵せんとする母虫を捕殺し其の後產卵して發生したる際其の仔虫の未だ充分成長せざる前に巡視して一々摘殺すべし

(三) 烏蠋、避債虫の母虫驅除と同じく園內巡視して摘殺するときは却て手數を要するを以て竹筒の如きものを携へて之れに入れ置き集めて殺すを簡便なりとす

(四) 蚜虫、各地に多少發生しつゝあれども未だ驅除に注意するもの少なし

盖し煤病と相連繫する場合多きを以て煤驅除として風呂水を注ぎ奏効するが如きは兩者に關係すべきものならん

然れども之れを豫防するには苗木購入の際充分注意し苟しくも該虫の付着せる苗木は一切除くこと肝要なり

若し誤て斯かる苗を植付くるときは幼樹の際に充分該虫を驅除することを勉めざるべからず而して其の法は春期に於て藁又は〳〵チマの類にて摩殺するか又は該虫の多く附着せる枝葉は悉く切り取り燒殺するを以て良法とせり

夏蜜柑　一反歩計算

支出

項目	摘要	金高
器具損耗及修理代	器具費五十分の一及修理代	五拾錢
除草手入	五回十工	參圓
病虫害驅除費	三工	六拾錢
肥料費	油粕百二十三貫二百目下草五駄	貳拾七圓拾錢四厘
施肥費	六工	參圓七拾五錢
山番賃		壹圓八拾錢
採收費	十工	壹圓五拾錢
覆損料及人夫賃	覆莚代三分一人夫四工	四圓六拾六錢六厘
諸公費		壹圓貳拾錢
		壹圓

支出計四拾七圓拾貳錢

收入

	數量	價格	單價
蜜柑（上物	七千二百六十個	百九圓貳拾錢	壹錢五厘
蜜柑（屑物	三千百三十個	貳拾四圓九拾六錢	八厘

收入計百參拾四圓拾六錢

差引益八拾七圓〇四錢

備考右は結果未だ盛んならざる時にして植付け後八年目の計算に據る

温州蜜柑一反歩收支計算表

支出

項目	摘要	金高
器具損耗修理代	器具費五十分の一及修理代	五拾錢
除草手入	六回十工	參圓
病虫害驅除豫防費	三工	六拾錢
肥料費	油粕六十二貫五百目下草十五駄	拾參圓七拾五錢
施肥費	六工	參圓七拾五錢
山番賃		壹圓八拾錢
採收費	十工	壹圓貳拾錢
		貳圓

諸公費　壹圓

支出計貳拾七圓六拾錢

収入

	収量	價格	單價
蜜柑（上物）	四百二十貫	參拾七圓八拾錢	九錢
蜜柑（屑物）	百八十貫	拾圓八拾錢	六錢

収入計四拾八圓六拾錢

差引益貳拾壹圓

備考右は結果の最盛なる時にして植付け後十五年目の計算に據る

栽培反別

種類名	反別
温州密柑	百十町一反歩
夏蜜柑	十一町三反五畝歩
唐密柑	二町三反一畝歩
平蜜柑	二町六反七畝歩
金柑	一町六反六畝歩
雜	一町五反六畝歩
合計	百二十九町六反五畝歩

産額

種類名	數量	價格
温州蜜柑	十六萬六千四百七十七貫八百目	壹萬參千參拾八圓貳拾貳錢四厘
夏蜜柑	十五萬四千六百八個	壹千八百五拾五圓貳拾九錢六厘
唐蜜柑	一萬三千七百二十貫	八百貳拾參圓貳拾錢
平蜜柑	一萬八百二十貫	六百四拾九圓貳拾錢
金柑	二千七百六十二貫	參百參拾壹圓四拾四錢
雜	五百貫	四拾圓
合計	九萬二千三百七十九貫八百目 十五萬四千六百八個	壹萬七千〇拾七圓參拾六錢

備考作付反別の割合に産額少數なるは近年作付者の遽かに增加せしに依る

販路及販賣の方法

本郡の販路は神戸、大阪、堺の三ヶ所にして其の販賣法は栽培者自から貯藏して直接販出するも又仲買者に畑の儘賣却し仲買者は其の地方に於て納屋又は土藏等を借入れ茲に貯藏して販出するとの二法にして前者は産額の三割位にして一般は後の方法に據れり

北河内郡に於ける調査

同郡農事試驗場長　松倉貢

沿革

本郡に於て蜜柑を産出するの沿革を尋ぬるに栽培の主たるは蹉跎村交野村にして其の沿革を左に掲ぐ

蹉跎村にて柑橘の栽培を初めしは何年頃なるや分明ならず古老の語る所に依れば始めは僅に盆栽とし其の後庭園に栽植せしのみなりしが之れが収利の目的を以て栽培するに至りしは今より前百三四十年にして初めは紀州蜜柑を多く栽培し迫々盛に栽培せしが新種八ッ代、小蜜柑等輸入するに従て栽植せり然るに凡そ四十年前温州蜜柑の利益あるを知りしより漸次盛大を來し今日にては十五町五反歩餘に及び他種類を栽培するもの殆んど無きに至れり

交野村は大字倉治其の産地たり元來倉治の地たるや桃に適し其の收益多かりし然るに數十年前より時の變遷に從ひ利益減少を顯はし先見者は蜜柑の桃に更むるの利あるを察し栽植したるに能く地に適し佳味にして敢て紀州蜜柑に讓らざるものを得且つ桃より遙かに利を得たりしかば皆競ふて栽植したるに能く其の効を奏し今日に至りては十町歩餘に及び將來益々多望なり

栽　培

地勢及土質地勢及土質は各地に依り種々あり然れども本郡栽培の主たる前記二村の地勢土質を記すれば左の如し

蹉跎村にありては山上山谷等一定ならずと雖も多くは西北風の當らざる日當りの宜しき地を撰擇す此邊の地質は砂質壌土なれば何れにも甚だ善く適せり交野村にありては地勢山を負ひ北西南の三方廣野にして土質は砂地なり

苗木及移植　苗木及移植等に至りては本郡大抵異ならざるを以て栽培最も多き蹉跎村に於ける方法を掲げ他は大同小異なるを以て省略すべし苗木は關西苗木の本場たる攝津川邊郡池田地方より輸入し通常三月中旬より五月中旬迄を移植の好季とす其の方法は畦巾一間半乃至二間株間の巨離二間乃至二間半の割合を以て一反歩七八十本を植へ其植へんとする地には適當の肥土を入れ苗木の根部を洗ひ根の方向に從て植へ肥土を覆ひ添木を立て風の爲めに震動するを防ぐ

肥料　春肥と稱して眞粉粕種粕干鰯等を用ゆ其の用量は一反歩に付眞粉粕十個乃至十二個（一個一

貫八百匁）の割合にて株の周圍に孔を穿ちて施し後ち土を覆ふ尚ほ夏肥其の他として人屎を三回施す毎回人屎十荷宛其の施肥の方法は春肥を施すと同じく株の周圍に淺く凹溝を設け人屎一荷を水三倍に延へて施し後土を覆ふなり

耕耘及攝護　年中除草を怠らず極めて清潔ならしめ害虫を棲息せしめず且つ病菌の發生を防ぎ冬季は根部に藁を五六寸位に切りて布き同じく藁或は古俵を以て樹を覆ひ霜雪の爲め樹枝の損傷せざる樣攝護す

採收及貯藏　十月二十日頃より適宜の熟度を見計ひ何回にも果實の損傷せざる樣叮嚀に採收し納屋に納む而して納屋には棚を幾段にも設け藁を布き其の上に厚さ五六寸位に果實を入れ蓆を以て覆ひ風の侵入せざる樣防護し翌年三四月頃に至りて販賣す

病虫害　病害は只煤病のみにして之れは恰かも煙煤を以て枝葉果實に墜抹したるが如く黑色を呈す此病菌は蚜虫類の尾端より汎泌する甘味の液汁より發生するものなり故に煤病を防がんと欲せば先つ蚜虫の寄生を防がざる可からず而して之の病菌は直接に果樹を害するものに非ず間接に枝葉の生理を害し衰弱せしむるものなり

害虫は其の最も甚だしきものを「ミノムシ」鐵砲虫とす其の內鐵砲虫の害一層甚し此虫は口器堅强なるを以て柑樹の皮肉に蝕入し終には材部に噛み入りて遂に枯死せしむ之れを防ぐには普通其蝕入せる孔に銅線を入れ之れを衝き殺すか或は油類を注入して殺すにあり

「ミノムシ」は樹葉を蝕害すること甚だしきものにして枝の一部之れが爲めに枯死することあり故に之れを防ぐには八九月頃蛹に變じ樹枝に巢を垂下せるものを一々採取し之れを壓殺するか或は燒殺するにあり

温州蜜柑一反歩收支計算表

但し植付後三十年を經たるもの

支出

一金參圓拾五錢	除草七回一回に付人夫一人半延十人半一日一人賃金參拾錢
一金壹圓參拾五錢	人屎施肥三回一回に付一人半延四人半一日一人賃金參拾錢
一金六拾錢	眞粉粕施肥一回二人一日一人賃金參拾錢

一金六圓　人屎施肥三回一回に付十荷つゝ延三十荷一荷に付金貳拾錢
一金四圓五拾錢　眞粉粕十個一個に付四拾五錢
一金七拾五錢　霜除覆藁五十束一束に付壹錢五厘
一金七拾五錢　霜除覆ひ人夫二人半一日一人賃金參拾錢
一金貳圓四拾錢　採收人夫八人一日一人賃金參拾錢
一金貳圓九拾六錢　諸公費
計金貳拾貳圓四拾六錢

收入

一金貳拾圓八拾錢　上蜜柑百六十貫目　一貫目に付金拾參錢
一金拾貳圓　中蜜柑百二十貫目　一貫目に付金拾錢
一金貳圓四拾五錢　下蜜柑三十五貫目　一貫目に付金七錢
計金參拾五圓貳拾五錢
差引金拾貳圓七拾九錢　純益

柑橘栽培本郡反別

温州蜜柑反別　四十一町六反歩
夏蜜柑反別　一町五反歩
計反別　四十三町一反歩

産額

七萬三千二百七十貫目　一反歩平均百七十貫目

價格

七千參百貳拾七圓　一貫目平均金拾錢

販路及販賣

販路及販賣の方法は一定の販賣をて之れなく多くは地方に販賣す一定の方法なし各自適宜に賣拂ふなり

備考

右は北河内郡柑橘栽培の一班を調査せるものなり

豐能郡に於ける調査

豐能郡農事試驗場長　今村藤三郎

沿革

古老の言に依れば其の起源德川中興時代にありたり今より凡そ二百年前（苗木を輸出し來れる土地不詳なれども恐くは今の川邊郡東野ならん）始めて方言平蜜柑（普通蜜柑）なるものを栽培したるも當時は僅かに邸宅の周圍に散植せしに過ぎざりしが何れも相當の收益あるを以て今より凡そ百五十

年前箕面村新稻に於て山地を開墾し種類の撰擇を加へ多く温州蜜柑を栽植するに至れり故に本郡中第一に栽培したるは箕面村にして次は池田町秦野村櫻井谷村萱野村なるが如し然るに近年南部各村落に山地を開墾し之れが栽培を志すものあるも其の作付反別僅少に過ぎず

地　勢

西南を開放し北は山を負ひたる向陽の地にして氣候温暖總て雨水は停滞するなきを肝要とす

土　質

土質は礫質壌土下層又礫質なるを尤も良とし水質多く氣水滲透作用の微弱なる土地は之れを忌む

苗　木

苗木は主として川邊郡山本村より輸入す大抵二三年生のものを本圃に移植し間作をなし樹の生長するに及んで間作をなさゞるを普通とす

移　植

移植は春季を最良とし四月上旬より下旬にかけ豫て整置へきたる地に根の上方に向はざる樣据付けて殆んど其七八分迄土を掛け後樹体を直し灌水を待て全土を蔽ふ而して接砧の少し露るゝ樣になし置き三四年生以上のものは竹を以て建添をなし移植後二三日毎に灌水す但其の内に一度降雨あるときは灌水の要なし一反歩六十本より七十本位植付くるを常とす

肥　料

肥料は主に魚肥にして往々人屎尿を使用するものあり何れも施用の際は表土を四五寸（其の幅の廣さ一樹の大小に依る）堀上げ茲に土に和して埋ひを常とす概ね幼樹は淺くし大樹は深くするを常とす且つ幼樹は株際大樹は枝下に施す施肥の期節は通常二月下旬三月上旬九月下旬十二月上旬の四期とす

耕　耘

前述の如く本郡は主に樹間に間作するを常とすれば其の作物に依り耕耘常に怠らす除草に力ひるを常とす而して此間作の事項は尚ほ取調を要する義少なからず後日を待て取調報告すべし

攝　護

樹下は極めて清潔を旨とす外國又排水を良くす霜除けは十一月下旬になし翌四月之れを撤去す之れに要する藁は薄くして疎なるを要す

剪枝は移植後三四年間に於て尤も注意し樹勢の不平均枝葉の摩擦其の他生育を害する枝葉を剪除す此期は二月下旬より三月上旬迄とす

採　收

貯藏の目的のものは冬至十日前より採り冬至に終る切り採りたる果實は可成叮寧に取扱ひ百五十乃至二百個(温州)を入るべき丹波籠と稱ふる籠に入れ貯庫に送る

貯　藏

貯藏庫の位置は乾燥なる土地を擇ひ空氣常に清冷方向は一定せずと雖も南北向は最も良好と稱へ居れり

構造又一定せずと雖も二間梁に桁行四間若しくは六間位にして藁葺室の一方に出入口を設け空氣扱き及濕氣扱きは室の大小位置の高低等に依り適宜に設け室の内方には丸竹を以て棚を設け其上には薄き蓆を布き壁の周圍には藁を立て果實の壁に密着をるす防き茲に果實を積入るものとす積入れに先ち之れを撰別し其の良きものより筵上に擴げ濕氣の乾きたるを待て棚上蓆上に積込む後時々下部の窓及空氣扱きを開放し果實の蒸るを防ぐ又時に室内を點檢して濕氣なきを見て各窓を閉づ

病虫害

病虫害の主なるものは煤病、蚜虫、髓虫等なり煤病柑橘の莖葉又は果實に寄生して大害をなす蚜虫は春季發芽の候より開花に至る迄の間髓虫は「カミキリムシ」の樹皮に産卵したるものが七八月の候根幹に喰入り樹心を害す

蚜虫は七八月の候園中を見巡つて其の産卵を殺すに在り煤病蚜虫に就ては未だ驅除豫防の實行をなせるものあらず驅除の一部として被害部分を摘み採り燒失する等なり

販路及販賣の方法

販路は主に大阪、神戸、高槻、丹波、茨木、北海道其の他隣接地へ輸送す北海道其の他遠路の處へ販賣するには十一月上旬採收し直ちに箱詰となし販賣す貯藏の目的にあらざるものは採收の當時優等なるものは箱詰となし下等のものは丹波籠に入れ阪地に販賣するあり又一度池田町青物市場に送りて茲にて販賣するあり一樣ならず貯藏室に送りたるものは漸次之れを丹波籠に入れ荷車にて阪地又は池田町の市場に送くる或は藁籠と稱する籠に入れ

箕面土産物として同地方にて販賣するあり

現在の種類及將來の見込

本郡に於て栽培する主なる種類は普通蜜柑(平)温州蜜柑等にして只一時の需用に應ずるの品種故貯藏久敷に耐へず從て販路自ら狹く利益又多からず故に本郡の栽培家は將來品質良好久敷に耐べき種類を栽植し其の利益の多きを擇ぶべきものとす

一反歩收支計算

一反歩收入合計金四拾壹圓七拾貳錢

同　支出合計金拾六圓五拾錢

差引純益貳拾五圓貳拾貳錢

右は尤も結果盛んなるとき植付後十三年目

種類	作付反別	産額	價格
温州	九四、六六〇七	一八七、七八一、六六四	四二、六二六
普通蜜柑	四〇、一〇四	六八、七九、六八〇	六、八七一、一六八
コウシ	五、六〇〇	九、一八、〇〇〇	六三八、九六〇
金柑	二、三七〇	二五五、〇一〇	五一、二〇〇
夏蜜柑其他散種見込	三〇〇	三五六、〇〇〇	五八、〇八〇
合計	一四二、九一三四	二六六、二四〇、三五四	三、〇三一、七四四

泉南郡に於ける調査

同郡農事試驗場長　塚元健次郎

沿革

距今百七十年以前乃ち享保年間岸和田舊藩主岡部氏紀州より種苗を購入し之れを舊南郡東西葛城村及山直上村邊大字各所に十數本宛を下付し其の栽培方を奬勵せしに起源し爾後寶暦天明年間等に於ては實に微々たる栽培なりしも漸次增加し收益も相當あるを以て天保年間に至り大に傳播し蜜柑の外文旦或は柑子等をも栽培するに至れり而して普通蜜柑は皮薄く貯藏上腐敗し易きを以て弘化年間の頃より專ら温州蜜柑を栽培するに至り且つ收益に於ても普通蜜柑に比し上位なるを以て目下十中の九以上該種に改植せり又夏蜜柑は僅かに十年前後の栽培にして其の當時山口縣より苗木を購入し宅地内外に散殖せしが爾後府廳に於ても勸誘分賦として苗木を下付せられ或は地方に於て接木し漸次增殖に向へり該樹は山間地平坦地の別なく善く繁茂せり此他金柑、橙、柚等の柑橘あるも僅々にして點々散植せらるゝのみ

栽培法

地勢　稍傾斜地にして餘り急峻ならざる地を良とす但文旦夏蜜柑の如きは平坦地にても敢て差支なし

土質　は砂土(俗に石クサリと云ふ)を良とす

苗木　枳穀臺木に接木してより二年を經て一尺位に植付け又二年を經て凡そ四五尺に伸張せしむ

移植　は八十八夜前後に於て三坪乃至四坪位に一本の割を以て移植す

肥料　は鯡粕、眞粉粕其の他厩肥等にして施肥は八十八夜前後を良とす

耕耘　は四月下旬より草を除き土用後に至る五六回

攝護　夏期には旱害豫防の爲め畑地に藁又は雜草の類を全面に布くを常とす又冬期に至らば霜害豫防の爲め移植後二三ヶ年間藁を以て柑樹の枝葉を包む又根元を藁にて包み凍氷の害を防ぐ

採收　は外國輸出向は十一月上旬より始むと雖も普通は冬至前より採收す

貯藏　其の方法二三ありと雖も概ね採收を鄭重に扱ひ納屋に入れ平面に厚さ五六寸に積み重ね時々空氣を流通せしむ

病虫害　病ひには煤と稱し幹枝葉とも墨汁を流したる如く黑くなる病あり害虫は甲虫或は天牛方言「ガツト」にして此虫の襲來時期は七八月の頃晝は叢中若くは樹間に潛伏し日沒より空中を飛翔し柑橘樹本幹の頸環部に飛下し銳利なる口器を以て樹皮を縱に咬噛し該部に散卵す其一雌に對する卵數凡そ三四十粒にして一塊五六粒宛五六ヶ所に産付し而して其の咬噛したる部分は恰も爪先にて搔きたるが如き傷痕を顯はすを以て皮內養液を逸出するが爲め其の被害少からず而して産卵後凡そ三四週間を經て孵化し八脚の赤頭白身の裸虫となり三四日にして木心に噛入り生長すると同時に益々害を逞ふし遂に上下部を貫食し往々該樹をして枯死せしむ此他は蓑虫にして該虫は柑橘樹の葉を食害す

温州蜜柑一反歩收支計算

但植付後十四五ヶ年目の分を調査せり

支出

一金貳拾圓　內譯

金貳圓　人夫賃

金四圓五拾錢　藁及雜草代
金拾貳圓　肥料代
金壹圓五拾錢　地租其他諸掛り及雜費
收入
四百八十貫目此金四拾五圓
收支差引貳拾五圓　收益
但蜜柑山にて仲買人へ賣却の計算

栽培反別及產額價格

種類	反別	產額	價格
普通蜜柑	七、二反	一六、八三〇貫	二、二八九圓
温州蜜柑	三八四、三	九三六、八九六	九六、七四三
柑子	四、六	一三、五二〇	一、三七九
文旦	三	九三〇	一二六
夏蜜柑	一三、三	二六、六〇〇	二、七九三

販路

温州蜜柑は東京西京横濱大阪神戸伏木高岡敦賀富山新潟青森函館小樽石ノ巻荻ノ濱馬關仁川釜山浦汐斯德桑港タコマ紐育シカゴシエートル等夏蜜柑其の他は大阪西京神戸地方等なり

販賣の方法

委托販賣にして上等品は大抵箱詰となし中等以下の品は石炭油空箱又は叺等に入れ輸出す

浦汐斯德行は寒氣甚しき土地なるを以て內國用小箱に入れ六箱を合し一繩となし莚を以て包み途中凍氷の憂ひを防ぐ

米國各地行は內國用小箱二個を合せたる如く長箱に製し果實を一々紙包となし箱詰となす

右委托販賣は弊害少なしとせず何となれば腐敗せざるものをして腐敗せしと云ひ又高價に賣捌きたるものを安價に支拂ひ其の他雜費を要せざるものに種々項目を付し種々費用を要せし樣の計算する等の形跡あり然れども輸出先の遠隔なると蜜柑商人は半農半商のものなるを以て直ちに足を伸し輸出先に至り是れが實地調査を爲す能はざる事情あり之れが爲め折角愛兒の如く培養せし蜜柑も奸商の爲めに實際利益あるものを往々損耗に歸せられ有望なる產物も終に收支欠損を生ずるあるより年々增殖の運びに至らざるなり

明治三十三年五月五日印刷
明治三十三年五月七日發行

發行所　大阪府廳內　大阪府農會

發行兼編輯人　大阪府泉北郡鳳村大字大鳥第百二十七番屋敷　富岡治郎

印刷人　大阪市西區土佐堀通四丁目十二番屋敷　正永良熙

〔活版製造所　合名會社三有社　印刷部印行〕

D
5-5
361-2